

つくばみらい市広告掲載基準

(趣旨)

第1条 この基準は、つくばみらい市広告掲載要綱第3条に規定する広告掲載の範囲についての基準として定めるものであり、広告媒体への広告掲載の可否は、この基準に基づき判断を行うものとする。

(広告全般に関する基本的な考え方)

第2条 市の広告媒体に掲載する広告は、社会的に信用度の高い情報でなければならぬため、広告内容及び表現は、それにふさわしい信用性と信頼性を持てるものでなければならない。

(個別の基準)

第3条 この基準に規定するもののほか、広告媒体の性質に応じて、広告内容及びデザイン等に関する個別の基準が必要な場合は、別途基準を作成することができる。

(規制業種又は事業者)

第4条 次に掲げる業種又は事業者の広告は掲載しない。

- (1) 風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律（昭和23年法律第122号）の適用を受ける業者
- (2) 風俗営業類似の業種
- (3) 貸金業の規制等に関する法律（昭和58年法律第32）第2条の適用を受ける業種
- (4) たばこに関するもの
- (5) ギャンブルに関するもの
- (6) 規制対象でない業種においても、社会問題を起こしている業種や事業者
- (7) 法律の定めのない医療類似行為を行う施設
- (8) 占い、運勢判断に関するもの
- (9) 興信所、探偵事務所等
- (10) 債権取立て、示談引受け等をうたったもの
- (11) 法令等に基づく必要な許可等を受けることなく業を行うもの
- (12) 民事再生法及び会社更生法による再生・更生手続中の事業者
- (13) 市税等に滞納がある法人又は個人
- (14) 各種法令に違反しているもの
- (15) 行政機関から行政指導を受け、改善されていないもの
- (16) その他市長がふさわしくないと判断したもの

(掲載基準)

第5条 次に掲げる内容を有する広告は、広告媒体に掲載しない。

- (1) 次のいずれかに該当するもの
 - ア 人権侵害、差別、名誉毀損のおそれがあるもの
 - イ 法律で禁止されている商品、無認可商品及び粗悪品などの不適切な商品又はサービスを提供するもの
 - ウ 他を誹謗、中傷又は排斥するもの

- エ 市の広告事業の円滑な運営に支障をきたすもの
- オ 公の選挙又は投票の事前運動に該当するもの
- カ 宗教団体による布教推進を主目的とするもの
- キ 非科学的又は迷信に類するもので、利用者を惑わせたり、不安を与えるおそれのあるもの
- ク 社会的に不適切なもの
- ケ 国内世論が大きく分かれているもの
- コ 求人・人材募集等に関するもの

(2) 消費者被害の未然予防及び拡大防止の観点から適切でないものとして、次のいずれかに該当するもの

- ア 誇大な表現（誇大広告）や根拠のない表示、誤認を招くような表現
例：「世界一」「一番安い」等
- イ 射幸心を著しくあおる表現
例：「今が・これが最後のチャンス（今購入しないと次はないという意味）」等
- ウ 虚偽の内容を表示するもの
- エ 法令等で認められていない業種・商法・商品
- オ 国家資格等に基づかない者が行う療法等
- カ 責任の所在が明確でないもの

(3) 青少年保護及び健全育成の観点から適切でないものとして、次のいずれかに該当するもの

- ア 水着姿及び裸体姿等で広告内容に無関係で必然性のないもの。ただし、出品作品の一例または広告内容に関連する等、表示する必然性がある場合は、その都度適否を検討するものとする
- イ 暴力や犯罪を肯定し助長するような表現
- ウ 残酷な描写など、善良な風俗に反するような表現
- エ 暴力又はわいせつ性を連想・想起させるもの
- オ ギャンブル等を肯定するもの
- カ 青少年の人体・精神・教育に有害なもの

(4) その他、市長がふさわしくないと判断したもの

（ホームページに関する基準）

第6条 つくばみらい市ホームページへの広告に関しては、ホームページに掲載する広告だけでなく、当該広告がリンクしているホームページの内容についてもこの基準を適用する。

（広告表示内容に関する個別の基準）

第7条 広告媒体を所管する課等は、具体的な表示内容等について、掲載の都度、次の各項目について検討し、判断することとする。医療、老人保健施設、選挙、墓地等に関する表示内容及び消費者関連法に基づく表示基準については、当該広告媒体を所管する課等が直接、事務を担当する課等と協議の上、内容の訂正・削除等が必要な場合には広告主に依頼することとする。広告主は正当な理由がある場合以外は訂正・削除等に応じなければならない。詳細は別表による。

(個別の基準)

第8条 この基準に規定するもののほか、広告媒体の性質に応じて、広告内容及びデザイン等に関する基準が必要な場合は、別途基準を作成できる。

つくばみらい市広告掲載要綱第3条運用解釈

要綱	分類	項目	細目
第1項	公共性, 中立性を損なうおそれのあるもの	広告の内容が著しく営利性を帯びるもの	投機に関するもの もっぱら価格を訴求して消費者の購買意欲をそそろうとするもの
		市の信用又は品位を害するおそれのあるもの	表現が虚偽や誇大で事実と異なるおそれのあるもの
			利用者に財産上の損失を与えるおそれのあるもの
		市が推奨しているかのような誤解を招くおそれのあるもの	市名使用及びそれと類似の表現のもの
第2項	法令等に違反するおそれがあるもの	違反するもの	各種法令に違反するもの
		おそれのあるもの	法令等に違反していなくても, 社会問題の対象となっているもの
第3項	公の秩序又は善良の風俗に反するもの	公の秩序に反するおそれのあるもの	脅迫, 暴力行為等犯罪行為を示唆・誘発するおそれのあるもの 誹謗中傷, あるいは不快な印象を与えるもの
		風紀上好ましくないと思われるもの	とばく, 無届の金融業, テレホンクラブ, アダルトショップ, ダイヤルQ2, いかげわしい表現, 乱暴な表現, 過激な表現, 社会生活を破壊するような表現, 正義に反するような表現, 風俗及び風俗関連の広告・人材募集の広告など
第4項	集団的に又は常習的に暴力的不法行為等を行うおそれのある組織・団体に関するもの		

第5項	風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律（昭和23年法律第122号）第2条に掲げる営業に該当するもの	キャバレー、ナイトクラブ、バー、キャバクラ、ピンクサロン、ソープランド、麻雀、パチンコ、わいせつな行為を個室等で行わせる業務、わいせつな写真・映像・音声・器具・その他データの配信や販売の業務、ストリップ、ラブホテル及び同施設に類似した休憩施設など	
第6項	政治活動、宗教活動、意見広告及び個人宣伝に係わるもの	公職選挙法に抵触する活動、政党等の講演会開催等、議員等が主催する行事案内、自社や宗教名を用いた布教・義援金募集活動、個人・団体等の主義主張、死亡通知案内、尋ね人の広告など	
第7項	貸金業の規則等に関する法律第2条に規定する貸金業に係るもの	金銭の貸付け又は金銭の貸借の媒介（手形の割引、売渡担保その他これらに類する方法によつてする金銭の交付又は当該方法によつてする金銭の授受の媒介を含む。）で業として行うもの。	
第8項	虚偽、誇大又は紛らわしい表現により、誤解又は不利益を与えるおそれのあるもの	誇大な表現（誇大広告）及び根拠のない表現や誤解の招くような表現のもの、射幸心を著しくあおるような表現など 例：「世界一」「一番安い」等という表現、掲載に関しては、根拠となる資料を要する。	
第9項	社会的な信用、信頼に欠けるもの		
第10項	市の行政運営上支障があると認められるもの		
第11項	その他掲載することが不相当と市長が認めるもの	その他	マルチ商法、キャッチ商法、靈感商法、資格商法、高収入を約束するような表現、暴力団及び関連企業等、その他犯罪や法令違反に係わる組織、主として本人の承諾を待たずに個人のプライバシーを取り扱う業者、市税の滞納が認められる企業（個人）など
			社会問題化している事項に関するもの

第7条別表

(1) 語学教室等	<p>安易さや授業料・受講料の安価さを強調する表現は使用しない。</p> <p>例：一か月で確実にマスターできる 等</p>
(2) 学習塾・予備校等（専門学校を含む。）	<p>合格率など実績を載せる場合は、実績年もあわせて表示する。</p>
(3) 資格講座	<p>ア 民間の講習業者が「労務管理士」などの名称で資格講座を設け、それがあたかも国家資格であり、各企業は労務管理士を置かなければならないという誤解を招くような表現は使用しない。下記の主旨を明確に表示すること。</p> <p>「この資格は国家資格ではありません。」</p> <p>イ 「行政書士講座」などの講座には、その講座だけで国家資格が取れるというような紛らわしい表現は使用しない。下記の主旨を明確に表示すること。</p> <p>「資格取得には、別に国家試験を受ける必要があります。」</p> <p>ウ 資格講座の募集に見せかけて、商品及び材料の売りつけや資金集めを目的としているものは掲載しない。</p> <p>エ 受講費用がすべて公的給付でまかなえるかのよう誤認される表示はしない。</p>
(4) 病院，診療所，助産所	<p>ア 医療法第69条又は第71条の規定により広告できる事項以外は、一切広告できない。</p> <p>イ 提供する医療の内容が他の医療機関等と比較して優良である旨を広告してはならない。</p> <p>ウ 提供する医療の内容に関して虚偽又は誇大な広告を行ってはならない。</p> <p>エ 広告する治療方法について、疾病等が完全に治癒される旨等その効果を推測的に述べることはできない。</p> <p>オ 写真については、病院の全景や当該医療機関が保有している医療設備、機器の写真等、医療に密接に関わるものは広告できない。</p> <p>カ マークを用いることはできるが、そのマークが示す内容を文字等により併せて表記しなければならない。赤十字のマークや名称は自由に用いることができない。</p>

<p>(5) 施術所（あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう・柔道整復）</p>	<p>ア あん摩マッサージ指圧師，はり師，きゅう師等に関する法律第7条又は柔道整復師法第24条の規定により広告できる事項以外は，一切広告できない。</p> <p>イ 施術者の技能，施術方法又は経歴に関する事項は広告できない。</p> <p>ウ 法定の施術所以外の医療類似行為を行う施設（整体院，カイロプラクティック，エステティック等）の広告は掲載できないため，業務内容の確認は必ず行う。</p>
<p>(6) 薬局，薬店，医薬品，医薬部外品，化粧品及び医療用具（健康器具，コンタクトレンズ等）</p>	<p>ア 薬事法（昭和35年法律第145号）第66条から第68条までの規定に基づき掲載する。</p> <p>イ 次のような表示は掲載できない。</p> <p>（ア）最大級及びそれに類する表示をしない。</p> <p>（イ）効能，効果及び安心を保証する表示（使用前後の写真，使用者の体験談，感謝の言葉等）</p>
<p>(7) いわゆる健康食品，保健機能食品，特別用途食品</p>	<p>医薬品的な効能，効果，成分，用法，容量等について次のような表示はできない。</p> <p>例：「1日3回，毎食後3錠お飲みください。」（服用に関する表示）</p> <p>「生活習慣病の予防に。」（効果効能の表示）</p> <p>「疲れ目を治します。」（特定部位への効果の表示）</p>
<p>(8) 介護保険法に規定するサービス・その他高齢者福祉サービス等</p>	<p>ア サービス全般（老人保健施設を除く）</p> <p>（ア）介護保険の保険給付対象となるサービスとそれ以外のサービスを明確に区別し，誤解を招く表現を用いないこと。</p> <p>（イ）広告掲載主体に関する表示は，法人名，代表者名，所在地，連絡先，担当者名等に限る。</p> <p>（ウ）その他，サービスを利用するに当たって，有利であると誤解を招くような表示はできない。</p> <p>例：「つくばみらい市事業受託事業者」等</p> <p>イ 有料老人ホーム</p> <p>ア に規定するもののほか，次に規定する基準を満たすこと。</p> <p>（ア）厚生労働省「有料老人ホーム設置運営標準指導指針」に規定する事項を遵守すること。</p> <p>（イ）所管都道府県の指導に基づいたものであること。</p>

	<p>(ウ) 公正取引委員会の「有料老人ホーム等に関する不当な表示(平成16年度公正取引委員会告示第3号)」に抵触しないこと。</p> <p>ウ 有料老人ホーム等の紹介業</p> <p>(ア) 広告掲載主体に関する表示は、法人名、代表者名、所在地、連絡先、担当者名等に限る。</p> <p>(イ) その他利用に当たって有利であると誤解を招くような表示はできない。</p>
(9) 不動産事業	<p>ア 不動産事業者の広告の場合は、名称、所在地、電話番号、認可免許証番号等を明記する。</p> <p>イ 不動産売買や賃貸の広告の場合は、取引様態、物件所在地、面積、建築月日、価格、賃料、取引条件の有効期限を明記する。</p> <p>ウ 「不動産の表示に関する公正競争規約」による表示規制に従う。</p> <p>エ 契約を急がせる表示は掲載しない。</p> <p>例：「早い者勝ち」、「残り戸数あとわずか」等</p>
(10) 弁護士・税理士・公認会計士等	<p>掲載内容は、名称、所在地及び一般的な事業案内等に限定する。</p>
(11) 旅行業	<p>ア 広告主は社団法人日本旅行業協会又は社団法人全国旅行業協会の会員とし、登録番号、所在地、補償の内容を明記する。</p> <p>イ 不当表示に注意する。</p> <p>例：白夜でない時期の「白夜旅行」、行程にない場所の写真等</p>
(12) 通信販売業	<p>ア 会社の概要、取扱商品等を検討し、掲載が妥当と判断した業者に限り掲載する。</p> <p>イ 特定商取引に関する法律(昭和51年法律第57号)第11条及び第12条の規定に基づく広告であること。</p>
(13) 雑誌、週刊誌等	<p>ア 適正な品位を保った広告であること。</p> <p>イ 見出しや写真の性的表現等は、青少年保護等の点で適正なものであること、及び不快感を与えないものであること。</p> <p>ウ 性犯罪を誘発又は助長するような表現(文言、写真)がないものであること。</p> <p>エ 犯罪被害者(特に性犯罪や殺人事件の被害者)の人権又はプライバシーを不当に侵害するような表現がないものであること。</p>

	<p>オ タレントなど有名人の個人的行動に関しても、プライバシーを尊重し、節度を持った配慮のある表現であること。</p> <p>カ 犯罪事実の報道の見出しについて、残虐な言葉やセンセーショナルな言い回しを避け、不快の念を与えないものであること。</p> <p>キ 未成年者、心神喪失者等の犯罪に関連した広告では、氏名及び写真は原則として表示しない。</p> <p>ク 公の秩序や善良な風俗に反する表現のないものであること。</p>
(14) 映画，興業等	<p>ア 暴力，とばく，麻薬，売春等の行為を容認するような内容のものは掲載しない。</p> <p>イ 性に関する表現で，扇情的，露骨及びわいせつなものは掲載しない。</p> <p>ウ いたずらに好奇心に訴えるものは掲載しない。</p> <p>エ 内容を極端にゆがめたもの，一部分のみを誇張した表現等は使用しない。</p> <p>オ ショッキングなデザインは使用しない。</p> <p>カ その他青少年に悪影響を与えるおそれのあるものは掲載しない。</p> <p>キ 年齢制限等，一部規制を受けるものはその内容を表示する。</p>
(15) 古物商，リサイクルショップ等	<p>ア 営業形態に応じて，必要な法令等に基づく許可等を受けていること。</p> <p>イ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律による一般廃棄物処理業に係る市長の許可を受けていない場合は，廃棄物を処理できる旨の表示はできない。 例：「回収」，「引取り」，「処理」，「処分」，「撤去」，「廃棄」等</p>
(16) 結婚相談所，交際紹介業等	<p>ア 結婚情報サービス協議会に加盟していること（加盟証明が必要）を明記する。</p> <p>イ 掲載内容は，名称，所在地，一般的な事業案内等に限定する。</p>
(17) 労働組合等一定の社会的立場と主張を持った組織	<p>ア 掲載内容は，名称，所在地及び一般的な事業案内等に限定する。</p> <p>イ 出版物の広告は，主張の展開及び他の団体に対して言及（批判，中傷等）するものは掲載しない。</p>
(18) 募金等	<p>ア 募金内容は，社会福祉事業のための寄付金募集に限る。</p>

	イ 厚生労働大臣又は都道府県知事の許可を受けたもので、その旨を明確に表示すること。
(19) 質屋・チケット等再販売業	ア 個々の相場，金額等の表示はしない。 例：「〇〇〇のバッグ 50,000円」，「航空券 東京～福岡 15,000円」等 イ 有利さを誤認させるような表示はしない。
(20) トランクルーム及び貸し収納業者	ア 「トランクルーム」は国土交通省の規制に基づく適正業者（マル適マーク付き）であり、その旨を明確に表示すること。 イ 「貸し収納業者」は会社名以外に「トランクルーム」の名称は使用しない。 また、下記の主旨を明確に表示すること。 「当社の〇〇は、倉庫業法に基づく"トランクルーム"ではありません。」等
(21) ダイヤルサービス	“ダイヤルQ2”のほか各種のダイヤルサービスは内容を確認のうえ判断する。
(22) ウィークリーマンション等	営業形態に応じて、必要な法令等に基づく許可等を受けていること。
(23) 規制業種の企業による規制業種に関するものの以外の内容の広告	本基準第4条で定める規制業種に該当する企業による、規制業種に関連するもの以外の内容の広告は、本基準に定められた規制の範囲内でその掲載を認める。
(24) その他、表示について注意を要すること	ア 割引価格の表示 割引価格を表示する場合、対象となる元の価格の根拠を明示すること。 例：「メーカー希望小売価格の30%引き」等 イ 比較広告（根拠となる資料が必要） 主張する内容が客観的に実証されていること。 ウ 無料で参加・体験できるもの 費用がかかる場合がある場合には、その旨明示すること。 例：「昼食代は実費負担」，「入会金は別途かかります」等 エ 責任の所在，内容及び目的が不明確な広告 広告主の法人格を明示し，法人名を明記する。 また，広告主の所在地，連絡先の両方を明示する。連絡先については固定電話とし，携帯電話のみは認めない。また，法人格を有しない団体の場合には，責任の所在を明らかにするために，

	<p>代表者名を明記する。</p> <p>オ 肖像権・著作権 無断使用がないか確認をする。</p> <p>カ 宝石の販売 虚偽の表現に注意（公正取引委員会に確認の必要あり。） 例：「メーカー希望価格の 50%引き」（宝石には通常、メーカー希望価格はない）等</p> <p>キ 個人輸入代行業等の個人営業広告</p> <p>ク アルコール飲料</p> <p>(ア) 未成年者の飲酒禁止の文言を明確に表示すること 例：「お酒は 20 歳を過ぎてから」等</p> <p>(イ) 飲酒を誘発するような表現の禁止 例：酒を飲んでいるまたは飲もうとしている姿等</p>
--	--